



スカウト 浄土

The Scout Jōdo

スカウト運動創始100周年を迎えて

浄土宗スカウト連合協議会

理事長 岡本圭示

4月の新年度は新入生や新就職の青少年たちの希望に満ちた笑顔が巷にあふれてまいります。皆様におかれましてはご健勝のことと存じます。

本年は私の干支の年ですので、益々元気にスカウト運動に猪突猛進してまいりたいと思っております。また本年は「スカウト運動創始100周年」であります。すなわち1907（明治40）年ベーデン・パウエル卿がイギリスの小さな離れ島で21人の少年たちとボーイスカウトを始めるための実験キャンプを行ったことに始まります。このキャンプの成功に自信を得て「スカウティング・フォア・ボーイズ」を著したところ大変なベストセラーになり、イギリス全土にスカウト運動が広まりました。その2年後にはアメリカに伝わり、その後は世界中に広まっていききました。日本には早くも1908年駐在員により報告があったため、西園寺公望内閣は調査員を派遣し、関係書類や多数のスカウト物品を持ち帰りました。ところがすでに内閣が桂太郎に代わってしまい、取り上げられずじまいになりました。その後

年月が経ち日本においてはボーイスカウトとは呼ばず、少年団日本連盟として1922（大正11）年に当時の東京市長後藤新平を総裁に就任いただき、正式に発足しました。しかしその後、太平洋戦争勃発のため少年団は解散の憂き目にありました。が、戦後昭和24年にGHQと文部省により財団法人ボーイスカウト日本連盟として再発足したのであります。

以後日本のスカウト人口はどんどん増えていきましたが、最近は少子化やその他の原因によってわずかな減少の傾向にあります。現在の日本のスカウト人口は約18万9千人であり、世界では155の国と地域で約2,600万人が登録されています。

日本連盟理事長橋本綱夫氏はスカウティングの1月号のご挨拶に「スカウト運動が世界に広がり、100年もの長きにわたり続けられ、常に発展してきたのは驚くべきことです。国を超え、時代を超えていく中で、多様な文化や環境にあわせて、適切にその教育手法や組織運営をアレンジしていくことができたからこ

そ今のスカウト運動はあるのです。子ども達の冒険心を誘い、身体を強くする野外活動。ある程度の幅を持つ年齢層での少人数グループ編成。そのリーダー格となる子どもを成人指導者が支え、子どもたち同士での学び合いを促すパトロールシステム。そしてバッジシステムによる個々の成長。これらの組み合わせによるスカウト教育プログラム。100年前に創始者ベーデン・パウエルが編み出したこの教育システムは、その後各種の教育運動がその考え方を採り入れるだけの、卓越したものです。また、スカウト運動と他の教育団体との大きな違いの一つに、長年の経験の蓄積により体系化された指導者の育成システムがあります。子どもたちの活動を支援する成人指導者がこれほど継続的に、多数この運動に参加し、支えているということもまた、驚きに値するものです」と書かれています（一部抜粋）。

さらにこの運動で特筆すべきことは、各人それぞれの宗教を大切に、「ちかい」と「おきて」の実践によって自分の信仰を明確にしていこうとが上げられます。今いじめや虐待等が社会問題となつていますが、スカウト教育の中では、感謝の心、思いやりの心を養うべく、心の教育を大切にしています。青少年の健全育成という社会のニーズに応えられるこの運動が今年100年を迎え、さらにのちのちまでも続いていくことを確信しております。

40周年で誓いをあらたに

— 総本山知恩院さまの御影堂で記念式典を挙行 —



平成18年8月17日、総本山知恩院御影堂に100人を越える浄土宗スカウトが集まり、法然上人の御前にスカウトの誓いとおきてを唱和し、浄土宗スカウトとしての誓いを新たにいたしました。



当会の40周年を迎えるにあたり、いろいろな案が出されましたが、今年度は日本ジャンボリーの開催年であり、また来年度にボーイスカウト100周年という大行事を控え、記念行事は初心に戻ろうという声が大きくなり、法然上人の前で、スカウトの誓いを改めて確認することになりました。

40周年記念式典開催に際しま

しては、知恩院さまの全面的な協力を得て、おてつぎ子ども奉仕団が翌日から再開するというお忙しい中を浄土宗スカウトのために、雪香殿への宿泊から式典、その後の帰敬式さらには青龍寺参拝までをおてつぎ子ども奉仕団と同様に過ごさせていただくことができ、よき記念となりました。

前日の16日には、勢至堂に登り、五山の送り火を参拝させていただきました。勢至堂からは、「鳥居形」「舟形」「左大文字」の3つの山を拜むことができ、この機会ならではの行事にスカウトたちも大感激でした。地元BS京都27団、GS京都17団の指導者が解説してくださり、全国に仲間のいるスカウトのありがたさをここでも実感いたしました。

式典の夜は、また知恩院さまの特別なはからいで阿弥陀堂にて帰敬式を行いました。大方丈

からの渡り廊下にロウソクが並べられ、幻想的な雰囲気の中、貴重な体験をさせていただきました。18日には、比叡山に登り根本中堂に参拝し、青龍寺へお参りすることができました。ちよつと雨がぼつぼつと落ちてきました。青龍寺に着く頃にはやんでくれました。



記念行事を締めくくるのはやはりキャンプ！ということ。草津西方寺さまの協力を得て、西方寺のキャンプ場に行きました。まずは自分で使う箸と器とコップを竹で自作し、夜には団の保護者の方を中心にお作

りいただいたおいしいカレーをご馳走になりました。



残念ながら雨のために営火はできませんでしたが、すべての40周年の記念行事がスムーズに展開され、西方寺の地藏盆で最後を締めくくることができました。スカウト運動と生きた信仰という世界が一体となつていくことも確認された記念行事となりました。



場所を提供してくださった皆さま、それぞれの行事を支えてくださった皆さま、そしてお盆の忙しい中、スカウトを引率してくださった指導者の皆さま、さらには参加してくださった皆さまに、改めて感謝申し上げます。

(事務局長・巖谷勝正記)

第四十九回 浄土宗スカウト仏教章研修会

浄土宗スカウト連合協議会事務局

研修隊副長 脇川 公暢

平成18年3月27日(月)から29日(水)にかけての2泊3日、大本山増上寺に於いて浄土宗スカウト仏教章研修会が行われた。

増上寺で仏教章が開催されるのは4年ぶりであり、御忌の準備に忙しいさなか、大本山の恵まれた施設をお借りできたことは大変ありがたく、スムーズに研修会が行われた。また増上寺は、当会理事でもある増上寺教務部長蓮池光洋上人が団委員長を務めておられるボーイスカウト港15団の活動拠点でもあり、スカウト運動にも大変ご理解をいただいています。

今回の仏教章研修会は募集定員を上回る申し込みがあり、全国各地から仏教章取得を志す、ボーイ・ベンチャースカウト41名の参加があった。

研修会の内容だが、事前研修で学んだ歌やお勤めの実践をし

ながら、仏教や浄土宗の教えを学んだ。釈尊伝とその教えは浜野善祐先生が、宗祖の伝記とその教えは東海林良雲先生がスカウトたちにわかりやすくお話され、また勤行は岡本圭示先生から手ほどきを受け、巖谷勝正先生並びに研修スタッフとともに別時念仏も実践した。

普段の生活で仏教にあまり接点がないスカウトたちが、お釈迦様、浄土宗の宗祖である法然上人を知ること、浄土宗の日常勤行を行うことは、大変新鮮な事だったと思う。

二日目の夜には帰敬式という、浄土宗スカウトとしてこれから生きていく上で、もっとも大切な儀式を迎えた。帰敬式は増上寺三階道場にて暗闇の中、

唯一の灯りである1本のローソクに照らし出された阿弥陀様の前で厳粛に行われた。途中、スカウトたちが帰敬式をうける際に持っているローソクは、阿弥陀様からいただいた灯火で輝いた。そして阿弥陀様の前で、仏の子どもとしてこれから生まれ変わりますとスカウト一同誓ってくれた。

帰敬式を終えたスカウトの中に「ローソクの光が灯った瞬間、私は阿弥陀様の存在を確かに感じる」ことができた、帰敬式は終わったが、ここから始まる何かを見つけることができたとような気がする」との感想があり、参加スカウトたちは、しっかりと帰敬式の意味を理解できたのだと思う。

2泊3日という短い研修会であったが、スカウトたちにとって「信仰とは何か」という、人生に

おける大切なものを考える時間となったことと思う。

研修会を終え、参加スカウトたちは、皆自隊に戻るが、この研修会で学んだ大切なことを実践し、「お念仏スカウト」として、各地域で活躍されることを願っている。



栄 誉 を 讃 え ま し ょ う

浄土宗仏教章授与スカウト (平成18年3月～平成19年1月)

浄土宗承認	氏 名	団	寺院名	教導職	浄土宗承認	氏 名	団	寺院名	教導職
H18.3.6	安保 孝亮	台 東 4	清 光 寺	岡本 圭示	H18.8.15	森高 健司	坂 出 4	法 然 寺	細井 俊道
H18.3.31	大山 美照	台 東 4	清 光 寺	岡本 圭示	H18.10.23	小柳 範央	立 川 1	清 光 寺	岡本 圭示
H18.4.24	日野 尚武	光 2	浄 國 寺	日野 哲雄	H18.12.8	小林 拓也	千 葉 25	大 巖 寺	長谷川匡俊
H18.4.24	奥山 祐司	坂 出 4	法 然 寺	細井 俊道	H19.1.11	中島 一優	台 東 2	正 定 寺	原 善定
H18.5.18	高橋 健太	木更津 2	選 擇 寺	山本 恵司	H19.1.11	島崎 竣大	台 東 2	正 定 寺	原 善定
H18.5.18	田中 亮輔	木更津 2	選 擇 寺	山本 恵司	H19.1.11	齋藤 衛	台 東 2	正 定 寺	原 善定
H18.5.18	渡辺 陽平	木更津 2	選 擇 寺	山本 恵司	H19.1.22	飯島佑太郎	長 野 1	真 光 寺	近藤 秀祐
H18.5.18	伊藤 佑	木更津 2	選 擇 寺	山本 恵司	H19.1.22	林 温大	長 野 15	真 光 寺	近藤 秀祐
H18.6.2	乗京 知宏	香 芝 1	極 楽 寺	白馬 丈俊	H19.1.22	吉澤慎二郎	長 野 1	真 光 寺	近藤 秀祐
H18.6.2	川端 優也	香 芝 1	極 楽 寺	白馬 丈俊	H19.1.22	塚田 達星	長 野 15	真 光 寺	近藤 秀祐
H18.6.2	森本 成美	葛 城 1	極 楽 寺	白馬 丈俊	H19.1.22	倉石慎太郎	長 野 1	真 光 寺	近藤 秀祐
H18.6.2	島田 雄樹	香 芝 1	極 楽 寺	白馬 丈俊	H19.1.22	松井 優太	長 野 15	真 光 寺	近藤 秀祐
H18.6.2	中村みなみ	北葛城 1	極 楽 寺	白馬 丈俊	H19.1.22	平田 康二	千 葉 25	大 巖 寺	長谷川匡俊
H18.7.25	三山 海	台 東 3	清 光 寺	岡本 圭示	H19.1.22	岡崎 貴行	荒 川 5	清 光 寺	岡本 圭示
H18.7.25	養老 駿	台 東 3	清 光 寺	岡本 圭示					

第14回 日本ジャンボリー 宗教儀礼報告

JHQ要員 (宗教部)
浄土宗スカウト連合協議会

事務局 中村 勝道

平成18年8月3日(木)

8月7日(火)

石川県珠洲市

りふれっしゅ村鉢ヶ崎

今回で14回目をむかえる日本

ジャンボリー。海外からの参加者
を交えて全国の代表スカウトが一堂に集い、4年に1度の国内で最も大きな国際キャンプ大会です。今回も2万人を超える参加者が日本全国より集結しました。今回、私はJHQ要員(宗教部)を拝命し、浄土宗スカウトの担当も兼ねて前日から会場入りし、奉仕をさせていただきました。

大会中、会場内では様々な催しが展開されており、スカウトたちにとってはあつという間に1日が過ぎていくという様子でした。

大会3日目、この日がいよいよ

よ宗教儀礼の開催日でした。仏教は会場の中で一番大きなアリーナ会場にて開催されました。ここは開会式やジャンボリー大会集いに使用された場所でもあります。



午前8時の仏教儀礼(今回の担当は立正佼成会でした)の集合時間に
なるとぞくぞくとスカウトたちが会場に集まってきました。すでに会場は宗派ごとに場所が区切られており、設えも準備されておりました。スカウトたちは自分の所属する宗派に参加することになっておりますが、その時まで浄土宗にいたいどれほどのスカウトが集まってくるの

かわかりません。準備を進めながら期待というより、不安のほう募ってきました。

「おはようございます。浄土宗はここでもいいですか?」

「浄土宗の宗教儀礼にきました!場所はここでもいいですか?」

といったスカウトの声が次々と聞こえてきました。よく見ると以前に仏教章研修会に参加したことのあるスカウトも見受けられました。また当日お手伝いに選択プログラムで会場に来ていた東京東4団のベンチヤースカウト、派遣隊の引率で来ていた長野飯田1団の指導者の方々が加わり、私どもをサポートしてくださいました。



浄土宗の儀礼が始まる時には、1,000人を超えるスカウトが集まりました。導師には

浄土宗社会国際局長である松本眞岳上人をお迎えし、スカウトと共に一枚起請文、つきかげ、同称十念をいたしました。最後に記念品としてなむちゃんストラップをスカウトに配布したところ、大変喜んでくれました。

記念品の配布数から1,300人以上の浄土宗スカウトがこ



の会場に集まり、声高らかにお念仏ができたことがわかりました。大変ありがたいことだと感じています。

最後になりましたが、今回の宗教儀礼に遠方のところご奉仕をいただきました皆様、また今回のジャンボリーのために備品保管場所など、多大なるご協力をいただきました石川教区能登組大運寺様に、心から厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

指導者研修会報告

日時 平成18年10月28日(土)
会場 京都市佛教大学(紫野キャンパス) 1号館大会議室

当会40周年を飾る指導者研修会は、佛教大学スカウト研究会の協力を得て、佛教大学で開催されました。



最初に「仏教とスカウティング」というテーマで、佛教大学講師で当会理事でもある牧達玄先生から講義を受けました。

漢字のクイズを交えながら、楽しく勉強いたしました。

次に、社会学部長広瀬卓爾先生から「非行への抵抗を育む」と題して、社会の中でのスカウト運動の役割ともいべきお話をいただきました。広瀬先生は現役の指導者でもあり、お話の中で、



中で、椎尾辨匡先生のお歌「時は

今 ところ足元そのことに 打ち込む命 とわの御命」に節をつけてご披露いただき、共生きの重要性も再確認いたしました。

最後は、当会理事長岡本圭示師から「浄土宗とスカウティング」の話が聞かれました。話の中で、今年の4月からボーイ隊に導入予定の信仰奨励章についても触れていただき、勉強させていただきました。今後ボーイ隊へも当会として積極的に関わって行かなければならないことが予想されます。

● 仏教章研修会のテキストとノートを改定

平成19年1月から浄土宗スカウトハンドブックと研修ノートを全面改定いたしました。今回から内容が、事前研修・本研修、事後研修と整理され、事前研修で学ぶべき事、事後研修で行うべき事を明確にいたしました。また1冊の研修ノートで仏教章の申請ができるように配慮いたしました。

● かつこう章表彰

当会理事で、ボーイスカウト水保1団の濱田智海上人がかつ

こう章を受章され、当会規定により表彰いたしました。

今年度 主な行事予定

■ 総会開催のお知らせ

本年はスカウト運動100周年を迎えました。各地区でもイギリスで開催されるワールドジャンボリーの見学会等も計画されていることでしょうか。

平成19年度年次総会を左記にて開催いたします。ぜひ総会にお集まりいただき情報交換させていただきます。

日時 平成18年5月●日

場所 宗務庁東京第●会議室

■ 平成19年度指導者研修会

平成19年度は当会理事濱田智海師が担当され九州ブロックボーイスカウト熊本連盟南部地区水保1団の協力を得て、開催される予定です。どうぞ奮ってご参加ください。

■ 第51回仏教章研修会

第51回になる仏教章研修会は、関東ブロックでの開催予定です。

地元開催を要望される方は必ず総会にご出席をお願いいたします。

定例の研修会は左記日程での開催予定です。

日程：平成20年3月27日(木)
(29日(土))

場所：未定

平成17年度広報掲載報告

◆ 浄土宗新聞

- 5月号(仏教章研修会)
9月号(NJ浄土宗儀礼)
10月号(40周年行事)

◆ 宗報

- 6月号(仏教章研修会報告)
8月号(総会報告・40周年案内)
10月号(指導者研修会開催のお知らせ)

1月号(指導者研修会開催報告、仏教章研修会開催案内、仏教章事前研修のお願い)

スカウト浄土

(第二十六号)

発行/平成十九年三月二十日
東京都港区芝公園四一七一四
浄土宗宗務庁社会国際局内
浄土宗スカウト連合協議会

URL: http://scout.jodo.or.jp

e-mail: scout-info@jodo.or.jp

編集者/ 巖谷 勝正

印刷/ 小竹印刷(株)